

(19)日本国特許庁 (JP)

(12)公開特許公報 (A)

503P1059 NO 00
(11)特許出願公開番号

特開2000-76736

(P 2 0 0 0 - 7 6 7 3 6 A)

(43)公開日 平成12年3月14日(2000.3.14)

(51) Int. Cl.⁷
G11B 15/02
27/032
H04N 5/91

識別記号
373

F I
G11B 15/02
H04N 5/91
G11B 27/02

373
X 5C053
P 5D103
C 5D110

マークド (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全4頁)

(21)出願番号 特願平10-243387

(22)出願日 平成10年8月28日(1998.8.28)

(71)出願人 000002185
ソニー株式会社
東京都品川区北品川6丁目7番35号

(72)発明者 小川 靖宏
東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニ
ー株式会社内

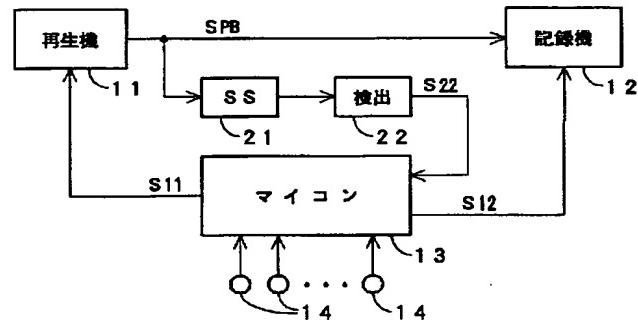
(74)代理人 100091546
弁理士 佐藤 正美
Fターム(参考) 5C053 FA15 FA21 GA20 HA25 JA26
KA24
5D103 AC01 KA03 KA07 KA27 KA76
5D110 AA04 AA28 BB21 CA31 CB01
CC09 CF02

(54)【発明の名称】ダビング装置

(57)【要約】

【課題】 親テープの無記録区間を自動的にカットして子テープにダビングし、子テープには記録区間が連続するようとする。

【解決手段】 再生機11から記録機12に供給される信号SPBの有無を検出する検出回路22を設ける。ダビング時、検出回路22の検出出力により、再生機11が親テープの無記録区間を再生しているときには、記録機12の記録を停止させる。



ピュータ13に供給され、ダビング時には、次のような処理が実行される。

【0014】すなわち、再生機11に親テープ1をセットし、記録機12に子テープ2となる生テープをセットし、その後、操作キー14のうちのダビングキーを操作すると、まず、マイクロコンピュータ13から記録機12に制御信号S12が供給されて記録機12は、記録ボーズ状態とされ、次にマイクロコンピュータ13から再生機11に制御信号S11が供給されて再生機11は、親テープ1の先頭から再生状態とされる。

【0015】しかし、再生機11が再生状態となっても、親テープ1の冒頭部分は無記録区間7Aなので、検出信号S22は“L”レベルであり、このため、マイクロコンピュータ13はなにも出力しない状態にある。したがって、再生機11は再生状態を続けるとともに、記録機12は記録ボーズ状態を続ける。

【0016】そして、再生機11の再生が進み、親テープ1の記録区間6Aの始端に達すると、映像信号SPBが再生されるようになってS22=“H”となるが、この結果、制御信号S12により記録機12は、それまでの記録ボーズ状態から記録状態へと遷移される。したがって、以後、図2Bに示すように、親テープ1の記録区間6Aが、子テープ2の先頭からダビングされていく。

【0017】そして、このダビングが続き、再生機11の再生が記録区間6Aの終端に達すると、映像信号SPBが再生されなくなり、S22=“L”となる。すると、制御信号S12により、記録機12はそれまでの記録状態から記録ボーズ状態へと遷移されるとともに、制御信号S11により、再生機11は再生状態から再生ボーズ状態へ遷移される。

【0018】続いて、記録機12は、制御信号S12により、S22=“L”となってから記録機12が実際に記録ボーズ状態に遷移するまでの時間分だけテープ2が巻き戻される。なお、このとき、再生機11は、再生ボーズ状態とされているので、親テープ1の記録区間6Aと、次の記録区間6Bとの間の無記録区間7が短くても、記録機12がテープ2を巻き戻している間に、再生機11が記録区間6Bを再生するようになることがない。

【0019】次に、記録機12は、制御信号S12により、再び記録ボーズ状態とされ、再生機11は、制御信号S11により、再生ボーズ状態から再生状態へと遷移される。したがって、再生機11においては、無記録区間7Bを再生していくようになる。ただし、記録機12は記録ボーズ状態を維持している。

【0020】そして、再生機11の再生が進み、親テープ1の記録区間6Bの始端に達すると、S22=“H”となるが、この結果、制御信号S12により、記録機12は、それまでの記録ボーズ状態から記録状態へと遷移される。したがって、以後、図2Bに示すように、親テープ1の記録区間6Bが、子テープ2の記録区間6Aに続

いてダビングされていく。

【0021】そして、以後、再生機11の再生が、記録区間6の終端および始端に達するたびに、上記の動作が繰り返される。したがって、子テープ2には、図2Bに示すように、無記録区間7がカットされ、記録区間6が連続するようにダビングされることになる。

【0022】こうして、この装置においては、ダビング時、親テープ1の無記録区間7を検出すると、記録機12は記録を行わないようにしているので、親テープ1に

10 無記録区間7があっても、その無記録区間7をカットし、記録区間6だけを連続させてダビングを行うことができる。しかも、そのためには、最初にダビングを行うためのキー操作をするだけでよいので、ユーザに負担のかかることがない。

【0023】図3の装置においては、子テープ2の記録区間6のつなぎ目で、映像信号がよりきれいに、かつ、正確につながるようにした場合である。このため、この装置においては、親テープ1の記録区間6の終端が検出されたとき、記録機12は、それまでの記録状態から逆方向再生状態、すなわち、回路が再生状態で、テープ2が巻き戻し方向に走行する状態に遷移される。

【0024】そして、この再生により得られる映像信号が同期分離回路23に供給されて同期信号が取り出され、この同期信号が検出回路24に供給されて検出信号S22と同様の検出信号S24が取り出され、この信号S24がマイクロコンピュータ13に供給される。

【0025】そして、記録機12が逆方向再生を行うと、テープ2の再生位置は、無記録区間7から直前の記録区間6の終端に達し、このとき、S24=“H”となる。すると、記録機12は、それまでの逆方向再生から記録ボーズ状態に遷移され、したがって、記録機12は、子テープ2の記録区間6の終端で記録ボーズ状態とされる。

【0026】したがって、再生機11が親テープ1の次の記録区間6に達すると、記録機12は、テープ2の記録区間6に続けて次の記録区間6をダビングすることになり、この結果、映像信号がよりきれいに、かつ、正確につながるように、記録区間6が連続することになる。

【0027】なお、上述においては、この発明をダブルデッキに適用した場合であるが、編集装置などに適用してダビング装置とすることもできる。また、上述においては、再生機11は無記録区間7を走行するときに再生状態であるが、高速再生状態（キューレコード状態）とし、続く記録区間6が検出されたら、親テープ1を巻き戻して再生状態として記録区間6の始端の検出に備えることもできる。さらに、同期信号S21の代わりにバースト信号などから、記録区間6と無記録区間7とを判別あるいは検出することもできる。

【0028】また、例えば、親テープ1に記録されている音声が、モノラル音声、ステレオ音声、2か国語音声

のうちのどれであるかを判別し、その判別結果にしたがって記録機12を上述のように制御することにより、不要な音声の音声信号および映像信号をカットして子テープ2にダビングすることもできる。そして、これは、オーディオ専用のダビング装置に適用することもできる。

【0029】さらに、親テープ1に記録されている番組が、例えば音楽、スポーツ、ニュースなどのうちのどれであるかを示す情報も記録されている場合には、その情報にしたがって記録機12を上述のように制御することにより、不要な番組をカットして子テープ2にダビングすることもできる。

【0030】

【発明の効果】この発明によれば、ダビング時、親テープに無記録区間があっても、その無記録区間をカットしてダビングを行うことができる。しかも、そのために、ユーザに負担のかかることがない。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一形態を示す系統図である。

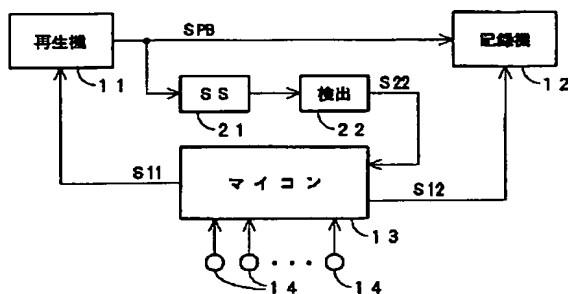
【図2】この発明を説明するための図である。

【図3】この発明の他の形態を示す系統図である。

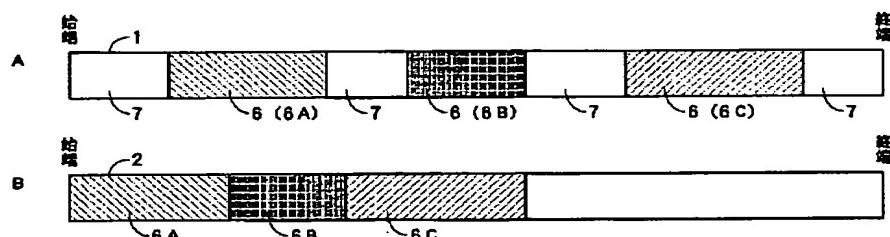
【符号の説明】

1 = 親テープ、2 = 子テープ、11 = 再生機、12 = 記録機、13 = マイクロコンピュータ、14 = 操作キー、
21 = 同期分離回路、22 = 検出回路

【図1】



【図2】



【図3】

